

令和2年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

(敬称略)

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
1	神奈川工業高等学校	個人	いとう りょうま 伊藤 良馬	1	令和2年6月の下校途中に、駅近くで体調を崩しうずくまっている年配の女性を発見し、介抱した。その後、通りかかった女性の知人に引き渡した。困っている方がいたときに声をかけることができる優しさを持ち、的確に状況を判断して、見ず知らずの人に対して勇気を奮って行ったこの行動は、他の生徒の模範となった。
2		個人	おおの りくと 大野 陸斗	2	新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった全国及び関東ものづくりコンテストの代わりに実施された「ものづくりコンテスト神奈川大会 電子回路組立部門」に出場し、優勝した。
3		個人	くまがいたかやす 熊谷 宇祥	2	日頃から、放課後遅くまで練習を続け、プログラムについては、臨時休業期間中に自宅学習等により熱心に取り組んだ。自ら問題点を発見しその解決策を模索する姿勢が、他の生徒の模範となった。
4		個人	おきつ さくた 興津 朔太	2	令和2年10月の下校途中に、電車内で体調を崩した友人を電車から降ろそうとしている方に遭遇した。なかなか降ろすことができずに困っている様子を見て声をかけて肩を貸し、無事に駅のホームまで降ろした。見ず知らずの方に勇気を出して声を掛け、友人を車外に降ろす際に手を貸したこの行動は、他の生徒の模範となった。
5		個人	ささき きょうこ 佐々木 叶子	3	「現代文B」の俳句の単元の中で創作した作品を「第三十一回 伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」に応募し、195万4,888句の応募の中上位約300句に選ばれ、都道府県ごとに5名のみが選出される、都道府県賞を受賞した。日々の学習活動にも意欲的に取り組んでおり、その真摯な態度と学習への積極的な姿勢は、他の生徒の模範となった。
6		個人	みた ゆうき 見田 祐希	3	新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業期間中の課題として、国土交通省等主催の「高校生の作文コンクール」に「ものづくりとの出会い」をテーマとした「一番の憧れ」という作文を応募し、優秀賞を受賞した。自宅学習期間において、高い意識を持って課題に取り組むなど建築に対して非常に高い関心を持ち、知識・技術を習得するだけでなく主体的に学ぼうとする姿勢は、他の生徒の模範となった。
7		個人	むらた りゅう 村田 龍	3	学校生活とアグレッシブインラインスケートの選手としての活動を両立し、練習等での怪我を乗り越えて、1年次から多くの大会で優秀な成績を収めた。3度の国際大会の参加と、イベントへのデモンストレーション参加等のボランティア活動などの経験を生かし、いつも明るく前向きに目標に向けて努力する姿勢は、他の生徒の模範となった。
8		個人	やぎ こうせい 八木 恒星	3	令和元年度に開催された東日本建築教育研究会主催「第38回全国高校生製図コンクール」課題1に挑み、定時制の生徒として全国で初の金賞を受賞した。建築研究部の部長として部をまとめ、文化祭や学校見学会における学校PR等のボランティアを行うなど、学校行事等にも積極的に取り組むとともに、自ら目標を立て、行動し、継続する姿勢は、他の生徒の模範となった。
9		個人	こせき まなか 小関 愛楓	4	校舎の壁に500箇所近い破損箇所があることを知り、校内の状況を改めて調査し、壁面の破損箇所の修繕を行うために必要な壁の構造等を研究した上で修繕を行い、補修箇所が目立っていた壁面を新築時のように美しく再生させた。困難な作業にも熱心に取り組む姿勢は、校内の美観向上だけでなく、他の生徒の生活意識の向上にも大きく貢献した。
10		団体	映画研究部	-	機材が少ない中、少ない部員で良質な映像作品を制作するために日々取り組んでおり、「高校生のためのeiga world cup」には3年連続出場を果たした。コロナ禍においても、過去に撮影した映像を利用して編集スキルの向上に努めるなど絶えず努力をしており、そこで培った技術や知識を先輩から後輩に継承し続けることにより、部の発展に貢献した。
11		団体	クリエイション部	-	学校の代表的イベントである中学生向け体験講座TECH LAB(テックラボ)の開催にあたり、体験内容の検討、説明スライドや配付資料の作成、当日の案内等を行うことで、中学生に広く学校の魅力を伝えた。参加者の中には、入学後クリエイション部に入学し、中学生に魅力を伝える側に回る生徒もおり、本イベントの理想的なサイクルを回す原動力となった。
12		団体	写真部	-	日頃から、県内・東京都内の再開発で急速に失われていく街並みを記録する活動を継続的に行っており、第40回全国高文連総合文化祭広島県大会(平成28年開催)を皮切りに、5年連続で県代表に選ばれている。地元である横浜市民ギャラリーの高校生写真展や大倉山芸術祭にも毎年欠かさず出展するなど、市民に親しまれている。
13		団体	放送部	-	令和元年度末のコロナ禍で、卒業式を例年どおりには行えない状況の中、自分たちができる最大限のことを考えた結果、風通しのよい6階ホールを会場として式を実施し、その様子を3年8クラス(4フロア)に遅延なくハイビジョン放送で中継した。各教室までのケーブルの敷設やテレビの設置を行うことにより、感動的な卒業式の開催に貢献した。

令和2年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

(敬称略)

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
14	横浜国際高等学校	個人	ふくい りん 福井 凜	2	第38回全日本中国語スピーチコンテスト神奈川大会『朗読部門』中学生・高校生 の部において、優秀賞を受賞した。 日頃から、中国語の授業に熱心に取り組み、大会に向けても妥協することなく 真剣に練習に取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
15		団体	「未来のための プロジェクト」 応募チーム	-	持続可能な発展をテーマにしたコンテスト「未来のためのプロジェクト」に応 募するにあたり、プロジェクトチームを組織して、オンライン上の研修やインス タグラムを通じた情報発信などの活動を展開した。 ドイツ語の授業内での活動を起点に、校内への呼びかけを行うなど積極的に活 動し、持続可能な発展に向けて行動する姿勢は、他の生徒の模範となった。
16	光陵高等学校	団体	光陵祭実行委員会	-	光陵祭（文化祭）の開催にあたり、密を避けるため、ICTを活用して事前の 完全予約制としたり、ホームページ上で各団体の活動内容の公開や予約者への通 知等を行ったりするなど、さまざまな工夫により行事を成功へと導いた。 コロナ禍で学校行事の実施が制限される中で、協力して実施方法を考え、課題 に向けて果敢にチャレンジする姿勢は、他の生徒の模範となった。
17		団体	体育祭実行委員会	-	体育祭の開催にあたり、事前の応援練習では、室内での声出し禁止など練習方 法を検討、徹底し、当日は、私語厳禁を徹底して、演技者・観戦者双方の配置や 移動の方法等を工夫することにより、行事を成功へと導いた。 コロナ禍で学校行事の実施が制限される中で、協力して実施方法を考え、課題 に向けて果敢にチャレンジする姿勢は、他の生徒の模範となった。
18	二俣川看護福祉高等学 校	個人	おの もえみ 小野 萌実	2	ダンス部員8名が、令和2年10月の部活動帰りに学校付近でひとり歩きをして いる高齢者を発見し、110番通報を行うとともに当該高齢者が自宅に戻る際に付 き添いを行った。 見ず知らずの人に対して善意の行為を行う姿は、他の生徒の模範となった。
19		個人	かわぞえ まい 川添 真依	2	
20		個人	すずき ここな 鈴木 心菜	2	
21		個人	なかがわ なつき 中川 菜月	2	
22		個人	のぐち ここな 野口 心夏	3	
23		個人	いとう ななみ 伊藤 菜々美	3	
24		個人	こん はるか 今 遥香	3	
25		個人	なかむら あかり 中村 あかり	3	
26	磯子工業高等学校	個人	かわの こうき 河野 幸喜	1	野球部員3名が、学校付近のバス停で高齢者の方が体調不良のため動けなく なっているのを発見し、他の一般市民の方とともに歩行支援をして、迎えに来た 車に乗車させた。 体調不良により動けなくなった方を見過ごすことなく、人命救助のために行動 する姿は、他の生徒の模範となった。
27		個人	まつだ かける 松田 翔	2	
28		個人	わが だいき 和賀 大樹	2	
29	白山高等学校	団体	生徒会本部役員	-	コロナ禍での文化祭の実施にあたり、今年度にはかできない取組を検討し、学 校初となる花火の打上げを立案した。打上げ決定後は、自治会長へのご挨拶や近 隣へのチラシのポスティング等により広く周知し、その結果、近隣の方々や小学 生などに花火を楽しんでいただくことができた。 文化祭のあり方を検討する中で新たな企画を立案し、その目的を地域の方々へ の感謝や励ましを表現することにまで広げるなど、地域に大きく貢献した。
30	横浜栄高等学校	個人	おおさこ しゅん 大佐古 駿	2	令和2年度「税の作文コンクール」において、納税することで医療制度や社会 福祉制度が充実し、それにより病気の早期発見や医療に掛かる費用も軽減でき るという内容の作文を応募し、戸塚税務署長表彰を受賞した。 また、部長を務めるサイエンス部では、例年、小学生や幼稚園児等に理科実験 のワークショップを行うなどボランティア活動にも熱心に取り組んでおり、日頃 から主体的かつ誠実に行動する姿勢は、他の生徒の模範となった。
31	横浜修悠館高等学校	団体	硬式テニス部	-	通信制高校のため活動時間を皆で合わせる事が難しい中、活動日を調整して 練習時間を確保した。また、ICTを活用してフォームの分析やフォーメーショ ンの検討を行うなど、新たな手法も取り入れて練習に励み、定時制通信制テニ ス大会において、シングルス・ダブルス共に準優勝を果たした。 地道に主体性を持って積極的に活動する姿勢は、他の生徒の模範となった。
32		団体	生徒会	-	地域の障害福祉サービス事業所である社会福祉法人「つぼみの家」と連携を取 り、作業（刺し子、ペットボトルの洗浄選別等）のお手伝いを毎年夏に行ってい る。また、Web開催となった文化祭においても、各団体の動画撮影や編集作業に 積極的に関わるなど、行事の成功に貢献した。 継続的な活動が難しい通信制高校において、意欲的に幅広い活動に取り組む姿 勢は、他の生徒の模範となった。

令和2年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

(敬称略)

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
33	瀬谷高等学校	団体	文化祭スタッフ	-	瀬谷高等学校文化祭スタッフは、文化祭の実務的な部分を担うスタッフの集まりで、その活動は20年以上受け継がれており、良き伝統となっている。今年度は、コロナ禍の中、感染症対策を中心に企画立案を行い、当日も注意喚起を怠らず、文化祭を成功に導いた。スタッフの多くが部活動等に所属しながらも積極的に学校行事へ参加し活躍した姿は、他の生徒の模範となった。
34	川崎北高等学校	個人	あきもと ゆうま 権本 祐磨	1	吹奏楽部員3名が、令和2年7月の放課後に部活動で外出した際に、男性がフラフラになった状態で歩いており、その後座り込んでしまったのを発見し、男性に声を掛け救急車を呼んだ。また、救急車が来るまでの間、持っていたタオルを濡らして首筋を冷やすなどの対応を行った。見ず知らずの方が倒れているのを発見し、勇気を出して声を掛け、救急車への通報を行うなど適切に行動した姿は、他の生徒の模範となった。
35		個人	おがた ほのか 尾形 穂果	1	
36		個人	ふくだ ほのか 福田 萌菜	3	
37	多摩高等学校	団体	TIC (Tama International Club)	-	日頃の活動の成果を、日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯等の大会で発揮して優秀な成績を収めるなど、活発に活動した。コロナ禍の臨時休業中も、オンラインでのディベート練習を行うなど、互いに意識を高めながら能力向上のための主体的な活動を続けた。ディベートを通して英語で論理的に話す努力を重ねただけでなく、他国の文化を理解し交流を深める活動を活発に行う姿勢は、他の生徒の模範となった。
38	向の岡工業高等学校	個人	うけもり えん 請盛 艶	2	令和2年10月に、駅で体調を崩した男性を発見し、スマートフォンでAEDの設置場所を検索して近隣施設から借り受け、当該駅員に届けるとともに、男性への声掛けを行うなどの救助活動に協力した。後日、東日本旅客鉄道株式会社横浜支社から感謝状が贈呈された。これらの勇気ある迅速な行動は、他の生徒の模範となった。
39		個人	かとう なつき 加藤 夏稀	2	
40		個人	とりまる さいき 鳥丸 彩紀	3	
41		個人	まつい だい 松井 大	3	
42	向の岡工業高等学校	個人	たなか ふうが 田中 楓貴	3	生徒会長として、生徒会役員での校内清掃や環境整備等、これまでになかった取組を積極的に行った。令和2年9月の川崎市内高等学校定時制生徒弁論大会では、幹事校の生徒会役員として、他の生徒とともに大会運営に貢献した。日々の授業にも真面目に取り組み、さまざまな活動に自主的かつ積極的に取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
43		団体	図書委員会 読みきかせ班	-	平成27年度から、定期的に養護学校等で絵本の読みきかせの会を開き、本の楽しさを伝える活動を行っている。また、読みきかせの会は地域住民との交流の場ともなり、学校のイメージアップにも貢献している。子どもたちに思いやりをもって接する態度や、絵本選びや練習等に主体的に取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
44	横須賀高等学校	団体	英語同好会	-	PDA神奈川県高等学校即興型ディベート大会へ出場し、進学重点校及びエントリー校17校中1位という成績を収め、全国大会への出場を決めた。海外帰国生徒や日常的に英語を使用する生徒がいない中、助け合って臨時休業期間中も練習を続け、各々の英語力を磨くとともに、社会的な時事問題にも熱心に取り組む、ディベートという新たな挑戦を試みる姿勢は他の生徒の模範となった。
45	大船高等学校	団体	新聞委員会編集部	-	第44回全国高等学校総合文化祭高知大会に出場し、文化連盟賞を受賞した。学校行事等の校内ニュースについての記事を広く作成するとともに、環境問題やSDGs、コロナ禍に関する特集を組み、年間を通して定期的に学校新聞本紙を、また月に1～2回の号外を発行するなど、少ない人数で精力的に活動した。また、秋の号は学校説明会でも配布し、学校の広報活動にも貢献した。
46	湘南高等学校	個人	みた かずひろ 三田 和宏	2	中高生4人のグループで、3Dプリンターを使用して新型コロナウイルス感染防止のためのフェースシールド223個を作成し、平塚市内の小中学校43校や、新型コロナ患者を受け入れている平塚市民病院などに寄贈した。コロナ禍において、自分たちにできる社会参加のあり方を考え、行動が制限される中、主体的に社会貢献を行う姿勢は、他の生徒の模範となった。
47	大磯高等学校	個人	ほりおか はるき 堀岡 陽樹	2	
48	藤沢工科高等学校	団体	ボランティア部	-	定期的に近隣の福祉施設等を訪れ、利用者の方々と一緒に手話で歌を歌ったり、施設のイベント等に参加したりすることで、交流を深めている。また、神奈川県警察本部サイバー犯罪捜査課の指導の下、サイバー防犯教室等の広報啓発活動に積極的に参加するなど、地域の防犯に貢献している。人数は9名と少ない中、イベントに参加された方々の理解を深めるため工夫を凝らし、積極的に活動する姿は、他の生徒の模範となった。
49	藤沢総合高等学校	個人	のじま るり 野島 瑠璃	3	書道部に所属し、日々自らの技術向上を目指して努力を続けており、第44回全国高等学校総合文化祭高知大会の書道部門では、文化連盟賞を受賞した。また、小学校3年次から続けているボーイスカウト活動では班長を務め、キャンプ等で海外からの参加者と交流を深めたり、小学生のメンバーに書道コンテストの指導をしたりと熱心に取り組んだ。

令和2年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

(敬称略)

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
50	小田原城北工業高等学校	団体	機械科 4年課題研究 「フェースシールド」 製作班	-	機械科4年生の課題研究で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための製品を、工業高校の特性を生かして製作することを企画し、医療現場等で役立ててもらうため、24個のフェースシールドを製作して小田原市へ寄贈した。 日常の授業が地域連携に繋がるという意識を持ってフェースシールドを制作することで、機械操作技術や学習意欲が向上し、また、製作したものを寄贈することにより地域貢献も果たした。
51		団体	デザイン科生徒	-	小田原市制80周年ロゴマーク、開成町あじさいまつり団扇の制作等、近隣施設や団体からさまざまな依頼を受け、制作活動に意欲的に取り組んだ。 コロナ禍においても、リモート会議などの新しいコミュニケーション活動を通じて地域連携活動を行い、自治体、地元企業等と連携して、それぞれの特性を活かした活動を行うことにより、地域の発展に大きく貢献した。
52	鶴嶺高等学校	個人	あまの めい 天野 愛彩	3	女子バレーボール部の主力として、関東大会を始め各大会で活躍した。また、ビーチバレーの大会にも出場し、今年度は第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」ビーチバレー競技少年女子の県代表選手として選出された。 臨時休業中も家庭での自主トレーニングに励み、目標に向かって常に努力を続けるとともに、学校行事の際は設営ボランティアを行うなど積極的に参加しており、その姿勢は他の生徒の模範となった。
53		個人	はまさき あみ 濱崎 杏実	3	
54	茅ヶ崎西浜高等学校	個人	えんどう みく 遠藤 美来	3	下校時に、交差点内で自転車と乗用車が衝突し、女子高校生が転倒しているところを発見した。乗用車がそのまま走り去ってしまったため、転倒した女子高生を介助して近くの交番まで連れて行き、事故の状況を説明した。 遭遇した交通事故において、被害者の視点に立った思いやりある行動や二次的な事故を防ぐための冷静な判断を行った姿は、他の生徒の模範となった。
55		個人	きくち あまね 菊池 天音	3	
56	上鶴間高等学校	個人	ささき あまね 佐々木 天音	3	勇気をもって行動する姿が、他の生徒の模範となった。
57	海老名高等学校	団体	新聞委員会	-	多くの生徒が部活動と両立して活動しているためまとまった時間が取れない中、原稿の添削やレイアウトの検討など、よりよい新聞発行に向けて活動した。 例年、神奈川県中学校・高等学校新聞コンクールで優秀な成績を収めており、今年度も第44回全国高等学校総合文化祭高知大会に出場した。 限られた時間の中で主体的に活動し、伝統を継承するとともに時代に即した新聞作りに向けて努力する姿勢は、他の生徒の模範となった。
58	城山高等学校	団体	生物部	-	令和元年台風第19号の際に通学路で土砂崩れが起こったことを機に、SDGs 開発目標の「気候変動に具体的な対策を」への貢献を目標に活動している。その一環として、バイオ燃料である緑藻クラミドモナスの培養、観察を続ける中で、クラミドモナスの安価で簡単な長期乾燥保存法を開発した。この成果は、第1回環境探求フォーラム2020で発表され、優秀賞等を受賞した。 部員3名と小さな部活ではあるが、環境問題という巨大な問題に果敢に挑戦し、地道に努力を続ける姿勢は、他の生徒の模範となった。
59	岩戸養護学校	団体	学級委員会	-	例年、校内・校外で赤い羽根共同募金のボランティア活動を2日間にわたって行っているが、今年度はコロナ禍の影響により、校内のみで行った。また、その活動を周知することを目的に、事前に学級委員の一人ひとりがポスターを制作し、校内でポスターコンテストを開催した。 コロナ禍で行動が制限される中、協力して活動を行い、ポスター制作においてもよりよいものを作るため努力する姿勢は、他の生徒の模範となった。

※「行為・実績等のあらまし」については、個人情報保護等の観点から、内容を一部省略して記載している箇所があります。